

外来機の大量飛来に厳重に抗議する意見書

沖縄防衛局からの連絡及び報道等によると、令和4年5月29日から30日にかけて、米海軍原子力空母ロナルド・レーガン艦載のF A-18戦闘攻撃機15機、E A-18G電子戦機、C-2A輸送機をあわせ計20機が突然、嘉手納基地に飛来した。

また、6月1日正午頃に三沢基地所属F-16戦闘機が10機、同日午後には米ハワイ州ヒッカム空軍基地所属F-22A戦闘機12機が飛来。翌2日にF-35B戦闘機が3機及びCMV-22オスプレイ1機、さらに6日にも米海軍原子力空母艦載機6機が飛来するなど、短期間に複数部隊、多機種の外来機が大量飛来しており嘉手納基地は異常な状況にある。

米軍は、F-22戦闘機が飛来した6月1日午前、「数日中に複数の第5世代戦闘機が嘉手納基地に一時的に飛来する予定である」と通知してきたが、所属部隊、配備期間、機種名及び機体数等の詳細は未だ明らかにしていない。

嘉手納基地においては、パパーループ地区付近からエンジン調整音が昼夜を問わず鳴り響き、町中に排気ガスの悪臭を漂わせるとともに、戦闘機が轟音を立てて離発着及び飛行訓練を繰り返し平穏な日常生活に大きな悪影響を及ぼしている実態に加え、今回の外来機の大量飛来は、さらなる基地被害の増大が危惧されることから、いかなる理由があれ断じて容認できない。

本町議会は、今年1月下旬から横田基地所属CV-22オスプレイや岩国基地所属F-35戦闘機等の外来機の飛来が相次ぎ騒音が増加したことを踏まえ、2月9日の臨時会にて騒音激化に抗議する意見書・決議を、3月3日の定例会においても相次ぐ外来機の飛来等に抗議する意見書・決議を全会一致で可決し、日米両政府及び関係機関に抗議したばかりである。我慢に我慢を重ねてきた町民の受忍限度をはるかに超えており、米軍の傍若無人な基地運用に対し激しい憤りを禁じ得ない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、相次ぐ外来機の大量飛来に厳重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 2 「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を遵守すること。
- 3 嘉手納飛行場からの訓練移転期間及び参加規模をより一層拡充すること。
- 4 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年6月13日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長
沖縄県知事

外来機の大量飛来に厳重に抗議する決議

沖縄防衛局からの連絡及び報道等によると、令和4年5月29日から30日にかけて、米海軍原子力空母ロナルド・レーガン艦載のF A-18戦闘攻撃機15機、E A-18G電子戦機、C-2A輸送機をあわせ計20機が突然、嘉手納基地に飛来した。

また、6月1日正午頃に三沢基地所属F-16戦闘機が10機、同日午後には米ハワイ州ヒッカム空軍基地所属F-22A戦闘機12機が飛来。翌2日にF-35B戦闘機が3機及びCMV-22オスプレイ1機、さらに6日にも米海軍原子力空母艦載機6機が飛来するなど、短期間に複数部隊、多機種の外来機が大量飛来しており嘉手納基地は異常な状況にある。

米軍は、F-22戦闘機が飛来した6月1日午前、「数日中に複数の第5世代戦闘機が嘉手納基地に一時的に飛来する予定である」と通知してきたが、所属部隊、配備期間、機種名及び機体数等の詳細は未だ明らかにしていない。

嘉手納基地においては、パパーループ地区付近からエンジン調整音が昼夜を問わず鳴り響き、町中に排気ガスの悪臭を漂わせるとともに、戦闘機が轟音を立てて離発着及び飛行訓練を繰り返し平穏な日常生活に大きな悪影響を及ぼしている実態に加え、今回の外来機の大量飛来は、さらなる基地被害の増大が危惧されることから、いかなる理由があれ断じて容認できない。

本町議会は、今年1月下旬から横田基地所属CV-22オスプレイや岩国基地所属F-35戦闘機等の外来機の飛来が相次ぎ騒音が増加したことを踏まえ、2月9日の臨時会にて騒音激化に抗議する意見書・決議を、3月3日の定例会においても相次ぐ外来機の飛来等に抗議する意見書・決議を全会一致で可決し、日米両政府及び関係機関に抗議したばかりである。我慢に我慢を重ねてきた町民の受忍限度をはるかに超えており、米軍の傍若無人な基地運用に対し激しい憤りを禁じ得ない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、相次ぐ外来機の大量飛来に厳重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 2 「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を遵守すること。
- 3 嘉手納飛行場からの訓練移転期間及び参加規模をより一層拡充すること。
- 4 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、決議する。

令和4年6月13日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官 在沖米国総領事
嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長